

## Study Abroad Fair 2017 参加

2017年2月14日と15日の両日、Universiti Teknologi Malaysia (UTM) のジョホールバルキャンパスで Study Abroad Fair 2017 (SAF2017) が行われ、筑波大学クアラルンプールオフィスから岩本准教授(文責)と Tuan Azma binti Tuan Ismail 女史が参加した。本イベントは2015年の第1回以来毎年行われ、今回で第3回で、本学の参加は2015年に続いて2回目である。

SAFは毎年、海外からの多くの大学が参加する国際的なイベントである。また来場者もUTMの学部学生や大学院生の他、近隣の高校やインドネシア等からの参加も加えると、およそ1000人が来場する。今回もスペイン2校、イギリス4校、フランス2校、ドイツ1校、オーストリア1校、フィンランド1校、インド1校、インドネシア2校、タイ1校、フィリピン1校、韓国1校、中国1校および日本4校の13カ国26校が集まった。日本からは本学に加えて、東北大学、芝浦工業大学および山口大学が参加した。前回に引き続き、KLオフィスのスタッフは、筑波大学のはっぴやのぼり旗、バナー、テーブルクロス、いすカバーなどを携え説明を行った。はっぴが目を引いたのか、多くの学生がひっきりなしに訪れ、用意していた冊子やパンフレットは早々と売り切れ、最後の1セットを保持して説明を続ける状況であった。ただし、筑波大学の知名度はそれほど高くなく、筑波大学の立地から説明する必要があった。それでも「東京近郊」、「生活費が安い」、「勉強や研究に集中できる環境」、「広いキャンパスと充実した設備」、「高い学問水準」、「スポーツ、芸術を含む幅広い分野」、「KLオフィスで大学院入試できる」など筑波大学の特徴を説明すると、高い関心を示してくれた。

学生の主な質問は、サマースクールはあるかと奨学金についてであった。また自分の専門と同じ勉強が出来るかについても多く聞かれた。適合する研究科等については前回のSAFでも多く聞かれたが、なじみの薄い分野ではあやふやな答えしか返せなかった。しかし今回は、国際室森尾貴広教授の協力を得てUTMの学部、研究科と本学の学部、研究科の対応表を作成したことから自信を持って回答することが出来た。森尾教授に感謝したい。

UTMのSAFは回を重ねるごとにより参加大学も増え国際的になっている。今回は諸般の事情により筑波からの派遣は見送られたが、運営など本学における留学フェア実施の参考になると思われるので、次回の参加を是非勧めたい。



筑波大学ブース



説明の様子